

## 年間第7主日の説教

金 大烈 神父 2009年2月22日(日)

### 《分かち合いましょう》

今日の福音(マルコ 2・1-12)を読みますと二種類の人々が現れます。ひとつは体が自分では動かさない中風の人を運んできた、その人の兄弟か友人かわかりませんが4人の男の人達が紹介されています。もうひとつはイエスさまが「あなたの罪は赦された。」と言うのを聞いて「神への冒涇だ。神以外に誰が人を赦すことができるのか。」と心の中で文句を言う人達が紹介されています。

ところで私達カトリック教会で一番大事にする秘跡は何でしょうか。最初に頂く秘跡は"洗礼"ですね。7つの秘跡の真ん中の秘跡は"ご聖体の秘跡"です。ミサを通してご聖体の秘跡が授けられます。ご聖体の精神は何でしょうか？分かち合いです。分かち合いの神秘とも言われます。分かち合いてどういうことですか？

「カトリック信者です。」と言いながら分かち合いの生き方ができなかつたら私達は信者ではありません。分かち合うふるまい、心が身に付いていないといけないと思います。なぜなら「これはあなたがたのために渡される私の体である。・・・これは私の血の杯、あなたがたと多くの人のために流された永遠の契約の血。私の記念として行いなさい。」私(イエス様)が自分の体をさいてあなたがたにあげたようにあなたがたも体をさいて人に与えなさい、というのがカトリックの精神だからです。

この4人の男の人達は中風の人を連れてきたがすごい混雑ですきまがなくイエス様の所に行くことができない。でもどうしてもイエス様にこの人を治してもらいたい。それでしかたなく屋根を剥がして病人を寝床ごとつり下ろした。そしてイエス様に治して下さいと頼みます。この様子を見ていた人々は99%が文句を言ったと思います。「やりすぎじゃないの？皆待っている。私達も治して欲しいと願っているのに。なぜそんなことをするのか。」皆様もその立場だったらそのような思いが出てこなかったと思いますか？その様子を見たらやっぱり私達の心は落ち着かないと思います。イエス様のように「あなたの信仰はすばらしい。」と感じられることより「なぜそんな自分勝手なことをするのか。」と悪い気持ちになるのが私達の自然な傾きでしょう。しかし、私達が忘れてはいけないことはこの4人の男の人達の心に感動しなければならないということです。このことを意識しましょう。昔から言われていることがあります。『分かち合えば分かち合うほど痛みは減って、喜びは増える。』これが分かち合いの神秘です。結局死ぬ時、私達の人生が良かったかどうかを見るためには自分以外の人々のために心を配るのが出来たのか、できなかったのが基準になるんじゃないでしょうか。やりがいを感じながら生きてきたかどうかその基準になるのではありませんか。わがままに自己中心にこの世を見ながら歩んできたなら、神に誇れるものが何かあるのでしょうか。私達人間は分かち合わなければ幸せを感じられないように創られたと思います。本能的に痛みも喜びも分かち合う時、幸せを感じられます。私達は淋しい存在です。一人では生きられない、分かち合わなければならない存在です。分かち合わなければならない心、言葉、物があると思います。分かち合おうとして下さい。そうすれば幸せになります。これが変わらない神様の掟です。もしこれを避けたら手に何を握っていてもその人は不幸です。

第2の種類の人を見てみましょう。ファリサイ派や律法学者の人達はイエス様の言った言葉にものすごく気分を悪くしました。「なぜ神様しかできない赦しを勝手にするのか。」と。人間の弱さなんです、悲しんでいる人、ガッカリしている人を見たら心が動きます。励ましたい、何かしてあげたいと思うのが自然な私達の心です。しかし喜んでいる人を見たら何か落ち着かなくなる。ということは喜んでいる人と共に喜ぶことは難しいことなんです。人間の弱さですね。韓国の悲しい諺に

「身内や親戚が土地を買うとお腹が痛くなる。」

というのがあります。もうひとつ

「相手の手の中のお餅が大きく見える。」

というのもあります。人間は無意識に比較する癖がある。あまり関係ない人がうれしいことで喜んでいても気にならないかも知れません。しかし身近な人、比べたくなる人に良いことが起こったらよい気持ちがない。皆様、ある人が成熟した人間か未熟な人間かをみる時には、相手の喜びと一緒に喜べるかどうかでそれがわかるのではないのでしょうか。皆様一緒に喜びましょう。誰かにうれしいことがあれば自分のことのように喜びましょう。それができないからいつも妬み、憎しみで争いの世界に生きるのです。

隣の人の喜びは私の喜びです。隣の人の痛みは私の痛みです。皆様、これがカトリックの精神ではありませんか。「愛しなさい。」それは難しいことではありません。結局分かち合うことです。一緒に喜び、一緒に悲しむ。これができればこの世の道が淋しい道ではなくなるでしょう。

ありがとうございました。